動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2939番
（公）043（222）7207番

97.1.9 No. 4527

一月七日、千葉県地方労働委員会に

不当労働行為救済申立て

小関木更津支区長による組織破壊攻撃を許すな！

全ての組合員の皆さん！

動労千葉は、一月七日、木更津支区・小関支区長による動労千葉組合員への脱退強要攻撃に関して、不当労働行為の救済を求める申し立てを、千葉県地方労働委員会に行なった。

今回の申立てのきっかけとなった脱退強要とは次のとおりである。かねてから気動車運転士から電車運転士への転換教育を希望していた組合員に対して、小関支区長自らが「動労千葉を脱退すれば電車運転士への転換教育を行う」と誘いかけ、木更津支区内において動労千葉からの脱退届とJR東労組への加入届を手渡し、それを受け取り、脱退させたというものであり、小関支区長本人も認めているのである。しかもこの脱退強要攻撃は、転換教育を行なうための仙台学園入学のための枠の確保や、転換教育後の配属に関して小関支区長が「習志野運輸区か京葉運輸区への配属となる」と、半年後の配属まで本人に語っていたことからも明らかなように、千葉支社ぐるみで行なわれた不当労働行為であることは明々白々である。

全く卑劣な脱退強要攻撃だ

さらに、脱退強要について動労千葉からの厳重な抗議に対して小関支区長は「不当労働行為とは考えていない。本人の希望をかなえただけだ」と開きなおったり、千葉支社にしても団交の席上「不当労働行為を行なった事実はない」「支区長という立場からすれば管理者だが、一方（東労組の）組合員でもある。支区長という立場で利益誘導はしていない。組合間でやったことは会社として関知していない」と完全な開き直りを行なうという不誠実な対応を行なっていたのである。

「本人の希望」をかなえることと自体、現場長としてはあまりにも当たり前のことであり、本来ならば組合所属に関係なく行なわれなければならないものである。しかし、今回の脱退強要攻撃は、本人にとっても切実な希望を逆手に取り、人の心を引き裂き、動労千葉を破壊するためには手段を選ばないという卑劣なものである。こんなことを絶対に許すことはできない！

「JR体制」にクサビを打ち込もう

動労千葉は、今回の脱退強要攻撃に対する謝罪、幕張電車区での有機溶剤作業の中止、千葉運転区への夏季輸送要員の配置を掲げ、恒常的スト体制を構築して九六年を闘いぬいてきた。その結果、有機溶剤作業での謝罪と千葉運転区への要員の配置をかちとるという大きな勝利をかちとってきた。しかし、木更津支区での脱退強要攻撃について千葉支社は、謝罪するどころか現在もなお開き直り、平然としているのである。いや、それどころか、JR東労組の「国労解体」方針をうけて、千葉運転区から習志野運輸区への転勤を利用して転勤先で国労からJR総連へと脱退させるなど、姿勢を改めるどころか、その卑劣さをますます増加させているのである。

こうした卑劣な千葉支社の姿勢を改めさせるとともに、分割・民営化から満一〇年を迎える中で、組織崩壊の危機に喘ぐJR総連革マルとJRとの結託体制にクサビを打ち込む闘いとして、申立てを行なったものである。

全ての組合員のみなさん！

木更津支部を先頭に組織破壊攻撃を粉砕しよう！労働委員会闘争の勝利をめざし、全力で闘いぬこう！恒常的スト体制を堅持し、JR体制を打倒しよう！

訃報

幕張支部　網野　茂さん（享年四五歳）におかれましては、一月七日、病気療養中のところ、薬石功なくご逝去されました。

網野　茂さんは、勝浦運転区廃止反対闘争を勝浦支部執行委員として闘いぬいている最中に病に侵され、その後も闘病生活を送りながらも勝浦運転区廃止反対闘争の最先頭で闘いぬかれました。

謹んでご冥福をお祈りするとともに、網野　茂さんの遺志を受け継いで最後まで闘いぬくことをここに誓います。